

八幡浜漁港における防災・減災、国土強靱化の取組（県営事業）



大型車両の増加により離合が困難な状況で、水産物運搬に支障をきたしている。



八幡浜漁港の概要

本漁港は、八西圏域の水産物流通拠点として、陸路や航路を活用し、水産物の出荷が盛んに行われています。また沖合には、多数設置されているタイ養殖施設に、エサを給餌し育成するなど、養殖生産拠点としても役割を担っています。さらに荒天時には、宇和海で操業する漁船の、避難港としての役割も担っています。

事業の目的と概要

本漁港の臨港道路は、養殖生産拠点である八幡浜漁港における、養殖生産量の増加に伴って大型車両が増加した結果、離合が困難となっており、慢性的に混雑している状況です。これにより、エサ、漁具等運搬、水産物の輸送に際して離合待ちなど、輸送時間の増加や車線の確保が出来ていない事による、水産物運搬の安全性や水産物の品質確保に支障をきたしています。そのため、漁業活動の利便性・安全性の向上を図り、安定した養殖生産を確保するために、本事業を実施しています。

事業期間：令和5年～令和13年

整備内容：臨港道路（拡幅）

標準断面図(R5より実施中)

